

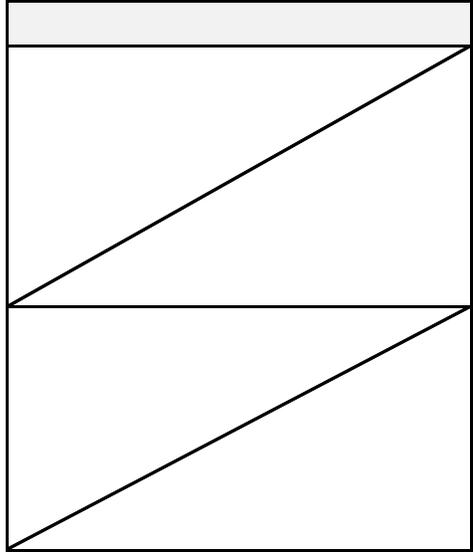
教科指導の改善プラン（第1学年の具体的取り組み）

		国語	算数	生活
第1学年	現状の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ひらがなの習得に課題がある児童がいる。 ・音読の際、ひとまとまりの言葉として読むことに課題がある。 ・語彙力の少なさから文章を書くことに課題がある児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章問題の問題場面をイメージできず、式に表すことに課題がある児童がいる。 ・10までの数の加法・減法では、計算する際に指やブロックを使う児童もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな体験や活動は意欲的に行う。しかし自己の気づきに結びつかない児童が多い。 ・気付いたことを言語化することに課題がある。
	具体的な改善のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ・学習時には、字のバランスやとめ・はね・はらいを机間指導中に声をかけたり、休み時間や放課後等デイサービスの時間も使って定着を図る。 ・授業の始めに音読の時間を設けたり、宿題など家庭学習で毎日音読に取り組みせたりする。 ・単元の始めに、わからない言葉の意味調べをしたり、言葉集めの学習を取り入れたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題場面の絵を描かせたり、具体物による操作活動をさせたりして、問題場面を捉えさせる。 ・10の合成と分解を繰り返しブロック等や百玉そろばん等の具体物を操作しながら計算をさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動後の表現の際、「見付ける」「比べる」「たとえる」などの視点を与え、自らの気づきを振り返ることができるようにする。観察カードの記入等で自分の気づきを意識させる。 ・気付いたことの書き方見本を提示する。
		体育	音楽	図工
	現状の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・運動に苦手意識を持っている児童がいる。 ・基礎・基本的な動きに個人差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的には、歌が好きで一生懸命歌を歌うが、若干名気持ちが歌に向かない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・絵や作品を作るのが好きな子は多いが、表現のしかたや、用具の扱いがうまくいかない児童がいる。
具体的な改善のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ・休み時間や授業内容で幅広い内容に取り組みさせて、できる活動を増やして自信につなげていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽に合わせて体を動かしたり、リズム遊びをしたりして、音楽的な感覚を身に付けさせるとともに、音楽活動への興味や意欲を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・材料や用具の基本的な使い方の指導を繰り返し行い、十分に慣れさせる時間を確保する。また、題材の中に複数の技法を取り入れ基礎・基本の定着を図る。 	

特別の教科 道徳

・読み物資料の問題場面を考える際、
場面の状況把握に課題がある。
・自分の生活を振り返ること(一般化)に
課題がある。

・場面の的確な状況理解を促すために
、発問を吟味する。また、板書や資料提
示を分かりやすく工夫する。
・ワークシートや最後の発問を工夫し、
教材を活かして自分の生活への振り返
りを行う。



教科指導の改善プラン（第2学年の具体的取り組み）

府中第四小学校 令和元年度

		国語	算数	生活	特別の教科 道徳
第二学年	現状の課題	<ul style="list-style-type: none"> 話したい気持ちはあるが、言葉が足りなかったり、冗長になったりして相手に正しく伝えることに課題がある。 書くことに対する個人差が大きく、順序立てて分かりやすい文章が書くのに課題がある児童もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 足し算の繰り上がりや、引き算の繰り下がりが直ぐにはできない児童が散見される。 問題解決をする際に、既習事項を活用して答えまでたどり着かない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 体験活動を意欲的に行うことができるが、ふり返りや自己の気づきに結びつかない児童もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 教材を自分のこととしてとらえることが難しい児童もみられる。 教材の内容と自分の生活を関連付けて考えを深めることに課題がある。
	具体的な改善のための方策	<ul style="list-style-type: none"> 話し方、聞き方のポイントを指導し、定着をはかる。漢字、音読を日常的に指導し、繰り返し学習を習慣づける。 	<ul style="list-style-type: none"> 百ます計算などの基礎的な計算問題を、ぐんぐんタイム等を有効に使うことで計算力の向上を図る。 問題解決学習を進める際には、具体的な手立てや方法（言葉や文章、式、絵や図、グラフや表など）を例示し、徐々に問題解決を図る方法を知る機会をつくっていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 活動後、「見付ける」「比べる」「たどる」などの視点を与える。観察においては、「大きさ・長さ・形・匂い・手触り・色」などの視点を与え、具体的に書かせたり、発表させたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ねらいをはっきりとした授業をする。 教材提示や発問を工夫し、登場人物へ自我関与しやすい状況をつくる。
		体育	音楽	図工	
	現状の課題	<ul style="list-style-type: none"> 運動が好きな児童が多いが、基本的な動き（コース内を真っ直ぐ走る・ボールを真っ直ぐ投げる・ブリッジ・前回り下り・後転・大縄・けのびなど）に課題がある児童もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 特定の歌を歌う授業が多く、歌唱に苦手意識を持つ児童が一定数存在しており、それらの児童が意欲的に授業に取り組めていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 活動に意欲的な児童が多いが、身近で扱いやすい材料や用具の基本的な扱い方を確認する必要がある。また、発想や構想の能力に課題のある児童が見られる。 	
具体的な改善のための方策	<ul style="list-style-type: none"> 様々な動きを取り入れた運動ゲームを積極的に行う。 授業の準備運動の後に体慣らしの時間を常時設けて取り組む。 休み時間や放課後にも運動に取り組み、運動の日常化を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な曲に触れることを通して、歌を歌ったり、曲を弾いたりする機会を増やし、より多くの児童の音楽への興味・関心を高められるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 感覚や技能を働かせる活動を通して、材料や用具の扱い方に十分慣れるようにする。また、活動の予告や児童の興味関心にあわせた題材設定を行うことで、発想や構想を促す。 		

教科指導の改善プラン（第3学年の具体的取り組み）

府中第四小学校 令和元年度

		国語	社会	算数	理科	体育
第三学年	現状の課題	<ul style="list-style-type: none"> 漢字を正しく書くことに課題のある児童が、6割程度いる。 物語文のあらすじは理解できる児童が多いが、会話から登場人物の心情をとらえたり、情景描写から様子を想像することが難しい。 話された内容をきちんと理解することに課題のある児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 資料から分かったことをノートに書き出したり、新聞にまとめたりする力に課題がある。 地図記号や八方位等の知識が定着しきれていないため、地図を読むことが難しい児童も少なくない。 	<ul style="list-style-type: none"> 時間や時刻を求めるための繰り上がりや繰り下がりが苦手な児童が多い。 計算はできても、あまりのあるわり算の文章問題の意味を正確にとらえることが苦手な児童が多い。 三桁のひき算の繰り下がりのミスが多く見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 昆虫や植物に興味をもっており、観察でも意欲的に取り組む児童が多いが、知識を問うテストになると、どう答えて良いのか分からなくなる児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 個人の運動は一人一人がよくがんばるが、グループ競技になると、得意な児童だけがプレーしてしまうことがある。また、勝ち負けに熱くなりすぎて失敗を責めてしまうことがある。
	具体的な改善のための方策	<ul style="list-style-type: none"> 漢字テストが70点以下の児童には70点以上になるまで再テストを行い定着をはかる。 指導の仕方をパターン化させながら、とらえ方のこつをつかませるようにしていく。 今、話したことの大事なことを教師がもう一度問うようにしたり、児童同士の発言を自分の言葉で言い直させたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 資料から教師が読み取ってほしいことの視点をいくつか例に出してから、学習に取り組むようにしていく。新聞にまとめる時の重要な用語を見出し語として提示し、内容を焦点化させる。 地図を読む際は、どこが方位や記号かを全体で確認してから学習を始め、繰り返して定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 筆算をして確認し、時間と時刻の定着を図る。 文章題では、使う数字や聞かれていることに印をつけてから取り組むことを年間を通して行っていく。 ベーシックドリルを活用し、既習内容の基本的な学習の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 観察の際に具体的な観察の観点を提示し観察するようにさせる。 大事な用語は、教科書の単元のまとめページや教科書の音読を宿題に出すなど、何度も復習させ定着をはかるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> みんながプレーしないと勝てないルールを作ったり、教え合う場を設定したりする。失敗した時こそ励ましの言葉をかけられるように繰り返し声かけをする。
		音楽	図工	特別の教科 道徳	外国語活動	
	現状の課題	<ul style="list-style-type: none"> 表現することに興味・関心をもって、授業に取り組む児童が多いが、基礎的な技術に個人差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 他の学年に比べ、発想する際に参考作品や友だちの作品と似ているものが多い。 新出道具の安全な使い方や、既習の身近な材料や用具の基本的な扱い方も確認する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを意欲的に伝えようとする児童が多いが、その一方で自分の考えを伝えることに消極的な児童もいる。 友達の考えに共感したり違いを考えたりなどの相互間での深まりは少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 初めての外国語の学習に意欲と関心をもっている児童が多い。発音を注意深く聞くこと、繰り返し声に出してまねすることが課題である。 	
	具体的な改善のための方策	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人の技能向上のために、興味をもてる工夫をして基礎的な技能を身に付けていくために、楽器奏法を段階的に進めていく。 教材を精選し、実態応じた課題を取り組ませ、演奏することに喜びをもたせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 興味関心を高める題材・発問の設定する。また発想・構想をする時間を確保し、言語化を手助けし、着想を評価する場面を増やす。 安全指導を丁寧に行い、活動の中で創造的な技能を十分に扱えるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ペア、小グループ等、学習形態を工夫する。 考えを比較できるように、同じ点や違う点を児童に問うようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ALTを活用し、正しい発音を身に付けていくようにする。 ゲームや活動の中自然に繰り返すことができるようなものを学習活動に選ぶようにする。 	

教科指導の改善プラン（第4学年の具体的取り組み）

府

		国語	社会	算数	理科
第四学年	現状の課題	<ul style="list-style-type: none"> 言語についての知識・理解・技能においては、漢字の書き取りに課題がある。定期的な実施している漢字小テストでは、高い習得率が見られるが、学習した漢字を作文中で適切に使用できる児童は少ない。また、文章中の言語の種類（主語・述語・修飾語）を判別することにも大きな課題が見られた。 読む能力においては、説明文の内容を読み取り、必要な情報を正確に取り出すことに課題がある。物語文でも同様に読んで概要を捉えたり、登場人物の心情を読み取ったりすることに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 地図上から必要な情報を読み取ることに課題がある。特に一つの地点から各場所がどの方位にあるのかが読み取れていない。また、都道府県の名称や位置など基礎的な知識・理解が定着していない。 一つ一つの資料から情報を読み取ることではできるが、複数の資料を比較し関連付けて考察し、そこから分かることを読み取ったり、考えたりすることに課題が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> わり算の筆算では、反復練習を行うことで筆算のしかたが定着していた児童が多く見られた。その一方で、どの位から商が立つか間違える児童や、乗法九九がすぐに浮かばない児童もいた。 	<ul style="list-style-type: none"> 観察実験の技能においては、基礎的な実験方法や器具の使い方が身に付いていない傾向がある。実験については、とても意欲的な児童が多い。 理科的な事象の名称など基礎的な知識が、学習内容により習得率に大きな差がある。 実験の結果から必要な情報を取り出したり、比較・関連付けて読み取ったりすることはできる。しかし、実験結果から考察、推論することには課題がある。
	具体的な改善のための方策	<ul style="list-style-type: none"> 作文の中で漢字を活用できるように、日常の日記指導や作文指導の中でなどで繰り返し指導していく。また、あわせて主語、述語、修飾語など言語の種類についても繰り返し指導し、文章を分かりやすく詳しく書く方法を指導していく。 物語文、説明文の指導においては文章の構造、語句と語句のつながりなど、文章を読み解く論理の理解に重点を置いて指導していく。そのために、指導計画を立てるときには、各単元、1単位時間のねらいを焦点化していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業の中や、朝の時間等で東京ページドリルを活用し、基礎的な地図記号や方位について押さえる。また、知識や技能的なことは繰り返し学習していかないと定着しない傾向がある。その単元でだけ学習するのではなく、さまざまな単元や他教科とも連携して、スパイラルに学習できるよう指導計画を立てる。 授業の中で、一つの資料から読み取っていくだけではなく、関連のある複数の資料を提示し、そこから比較・関連付けて考察していく。また、少数者や全体で検討し共有していく活動も重視していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 筆算の仕方の習得だけではなく、具体物や絵、図などをもとに計算のしかたを考えさせ、筆算と結びつける。 	<ul style="list-style-type: none"> 観察・実験においては、使用する器具の使い方や実験方法、手順について共通理解する時間を確保する。また、実験結果から必要な情報を取り出した上で、そこから何が分かるのかという考察する活動をより充実させていく。（例：自分の考えをまとめる時間の確保、小集団での協働学習、全体での共有化など） 電気、磁石など、生活の中で身近ではあるが、あまり意識して活用する機会が少ないものに対する知識・理解の習得率が低いので、さまざまな単元の中で復習的に扱うことができるようスパイラルに学習計画を立てていく
		音楽	図工	特別の教科 道徳	外国語活動
	現状の課題	<ul style="list-style-type: none"> どんな曲想の楽曲も元気に取り組む雰囲気がある。発表曲があると、積極的に取り組むことができる。 しかし、意欲や技術には個人差があり、集中して練習する雰囲気づくり・学習態度の定着が最優先の課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> 意欲的に表現活動に取り組めるが、指示を聞いて用具の準備をしたり、次に何をすればいいか自分で考え活動したりすることに課題がある。 発想構想の能力・技能とも、差が大きく、支援が必要な児童が比較的多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 登場人物の心情を考え、何が良かったのかあるいは悪かったのかの善悪の判断ができる児童が多い。 実際の場面に即して、抽象化できる児童は少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 発音練習やALTとのコミュニケーションをとることに意欲的に取り組んでいる様子である。単語を繰り返すことは、できる児童が多いが、ゲームなどの場面で、文を使える児童が少ない。

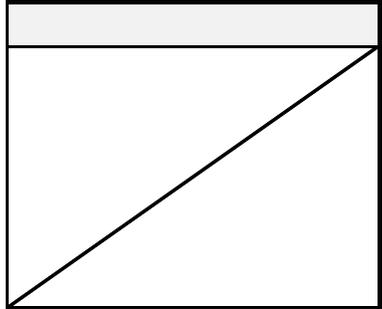
<p>具体的な改善のための方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習態度の定着を最優先に取り組み、継続的に指導する。 ・同時に、児童が集中して取り組める学習活動になるよう、様々な教材を多く取り扱う等の工夫を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・板書を活用したりできたことを認め合ったりしながら、自分でやるべきことを考える習慣をつけていく。 ・支援が必要な子には、個別に具体的な指示を出し、スムーズに取り組み始められるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の導入部や終末で、児童の生活場面を想起させ、テーマに迫っていく。 ・授業の復習の機会を作り、実際の学級のルール作り等に生かす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小単位のグループを中心にコミュニケーションを取る方法の練習をする。 ・授業の最初や掲示物を工夫する。また、復習の機会を設ける。
---------------------	--	--	---	---

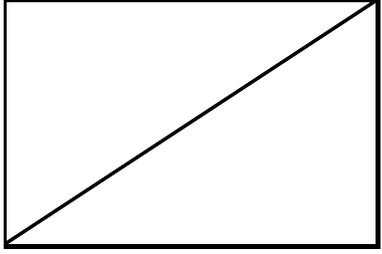
中第四小学校 令和元年度

体育

- ボール運動や器械運動、リレーに意欲的に取り組み、ルールを守っている児童が多い。
- 技のポイントについて考えずに取り組んでいる様子が見られる。

- ルール作りや上達のポイントの話し合いの時間を作り、高め合えるよう指導していく。
- 技のコツが理解しやすいよう、映像やポスターなどを見せる。





教科指導の改善プラン（第5学年の具体的取り組み）

府中第四小学校 令和元年度

		国語	社会	算数	理科	体育
第五学年	現状の課題	<ul style="list-style-type: none"> 言語についての知識・理解・技能においては、漢字の書き取りに課題がある。定期的の実施している漢字小テストでは、高い習得率(96%)が見られるが、学期末に実施したまとめテストでは習得率が80%にとどまっている。また、学習した漢字を作文中で適切に使用したり、正確に音読したりすることは苦手な児童が多い。敬語の種類(尊敬語・謙譲語・丁寧語)を判別することにも課題が見られる。 読む能力においては、説明文の内容を読み取り、必要な情報を正確に取り出すことに課題がある。物語文でも同様に読んで概要を捉えたり、登場人物の心情を読み取ったり、要旨を読みとることに課題がある。 書く能力においては、文章のまとまりごとに段落を分けて整理することや、接続語を正しく用いて筋道の通った文章を書くことに課題がある。また、原稿用紙の正しい書き方が身につけていない児童も多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 世界の地域の様子や日本の国土、気候に対して、イメージをもって学習することが難しく、知識・理解の習得率が低い。 教科書や資料集から関連のある言葉を探し出したり、調べたりする活動には意欲的に取り組む様子が見られるが、複数の資料を関連づけて考察したり、各自が興味をもって調べ学習を進めていくには課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> かけ算九九はある程度身につけているが、桁数の大きいかけ算、わり算に課題が見られる。特にわり算の習熟に課題が見られる児童が多い、小数点の動かし方や倍の考え方が理解できていない児童が多い。小数点の位置による間違いと単純な計算による間違いも多い。そのため、小数のわり算の習得率は60%程度となっている。 文章問題では、問題場面をイメージし、分かっていることと聞かれていることを整理して、正しい式を立てることに課題がある。 いろいろな単位に対する理解が十分でない。 図形の角においては、内角の和に関する知識や理解はおおむねあるが、角の大きさを計算で求めることに課題がある児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 観察実験の技能においては、基礎的な実験方法や適切な実験器具の使い方が十分に身に付いていない傾向がある。 理科的な事象の名称など基礎的な知識が、学習内容により習得率に大きな差がある。 実験の結果から必要な情報を取り出したり、比較・関連付けて読み取ったりすることはそこそこできる。しかし、実験結果から考察、推論することには課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 運動をすることに消極的な児童がいる。 作戦を立てて、ゲームに取り組む力に課題がある。作戦を実行に移すことができない。 運動能力の個人差が大きい。
	具体的な改善のための方策	<ul style="list-style-type: none"> 作文の中で漢字を活用できるように、日常の日記指導や作文指導の中で繰り返し指導していく。音読練習を適宜取り入れ、漢字と音を一致させていくように指導していく。また、あわせて敬語の種類についても繰り返し指導し、習熟を図る。 物語文、説明文の指導において、内容理解に偏重するのではなく、文章の構造、語句と語句のつながりなど、文章を読み解く論理的理解に重点を置いて指導していく。そのために、指導計画を立てるときには、各単元、1単位時間のねらいを焦点化していく。 文章を書く際には、構成メモを作成し、書きたいことの内容を明確にしたり、書き出しやまとめ方を考えたりしてから書くように指導していく。原稿用紙の使い方については、基本から丁寧に繰り返し指導していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 知識や技能的なことは繰り返し学習していかないで定着しない傾向がある。授業の導入では前時の振り返りを行い、日本と世界のつながりを理解し、興味関心を広げながら意欲的に学習に取り組めるようにする。 授業の中で、一つの資料から読み取っていくだけではなく、関連のある複数の資料を提示し、そこから比較・関連付けて考察していく学習場面を設けていく。また、少人数や全体で検討し共有していく活動も重視していく。 ICT機器を活用し、本単元に関わりのある写真や動画、資料を提示することで学習意欲を高めたり、実感をもって学習を進められるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 文章問題から、何を求める問題なのかを意識させ、計算の反復復習を行う。 数直線や表を書くことを習慣づけて、そこから立式することに慣れさせる。 朝学習や家庭学習を利用して、既習内容の計算練習を行う。 単位換算のプリントを活用して、反復練習をする。 図形の求積や単位量当たりの大きさの問題を解くための見通しをもたせることが肝要である。 三角定規や、図形の性質の理解を深めながら、いろいろな問題に慣れさせることで、思考力を高めたり、解く楽しさを感じたりできるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 観察・実験においては、使用する器具の使い方や実験方法、手順について共通理解する時間を確保する。また、実験結果から必要な情報を取り出した上で、そこから何が分かるのかという考察する活動をより充実させていく。(例:自分の考えをまとめる時間の確保、小集団での協働学習、全体での共有化など) 植物の成長や、雲の動きなど、生活の中で身近ではあるが、あまり意識して活用する機会が少ないものに対する知識・理解の習得率が低いので、さまざまな単元の中で復習的に扱うことができるようスパイラルに学習計画を立てていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 動機付けを工夫し、スモールステップで課題に取り組ませる。 ゲームにおける効果的な動き方を教えたり、考えさせたりして、作戦の有効さを感じさせる。 児童一人一人が自分の力に合っためあてをしっかりともち、スモールステップで達成していけるよう指導の工夫や場の設定を行う。
	現状の課題	<ul style="list-style-type: none"> 学習内容に対して、素直にまじめに取り組む児童が多く、上達も早い。 すすんで表現する意欲には一部課題がある。個人的な興味がある分野には積極的であるが、それ以外の分野には消極的である。 感じ考えた内容を言語化する力に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習規律を守り、活動意欲が高く、話合い活動もよくできる児童が多い。一方で、一斉指導の内容を自己の課題であるとしてえられない児童もいる。また、課題を達成する意識が低く、進度に差が出る。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習内容に対する興味・関心に、個人差(男女差)を感じる。 簡単な調理や手縫いの技能に差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 道徳的価値への理解に課題がある。 物事を多面的、多角的に考える力に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 英語を話すことに抵抗があり、恥ずかしさを感じている児童が多い。 習熟に個人差がある。アルファベットの文字を正確に書いたり言ったりすることができない児童がいる。
	具体的な改善のための方策	<ul style="list-style-type: none"> 卒業式に向けて役割をもたせ、全員で共感できる喜びや充実感、達成感をもたせていくための工夫をする。 興味のある学習内容以外も積極的に取り組めるよう工夫し、様々な教材を経験できるようにしていく。 学習活動の前後に言語活動を多く取り入れていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 指導の内容を児童自身が、言語化して確かめる場面を授業ごとに設定し、一人ひとりが確実に課題把握できるようにする。 児童の思い・つまずき・進度を確かめながら、学級担任と連携・相談して声掛けの回数を増やし、つくりだす喜びが味わえるようにしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 実践カードなどを用いて、自分と家族などのかかわりを考えて、実践する喜びを味わわせる。 グループ学習を用いて、互いに教え合うことで、互いの技能を高め合わせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 道徳的価値への理解が深められるよう、教材提示の方法(範読、BGMの活用、紙芝居、PCなど)や自我関与が深まるような発問を工夫する。 普段の生活場面から、物事は様々な面から見られることを取り上げ、児童が多面的、多角的に考えることのできる材料を与える。 	<ul style="list-style-type: none"> 担任が楽しそうに英語を話している姿を見せ、英語に対する抵抗感をなくさせる。また、表情や顔色、ジェスチャーでもコミュニケーションを図ることができることを理解させる。 アルファベットへの理解を深めるため、カルタなどゲームを取り入れ、楽しみながら覚えさせる。

教科指導の改善プラン（第6学年の具体的取り組み）

府中第四小学校 令和元年度

		国語	社会	算数	理科	体育
第六学年	現状の課題	<ul style="list-style-type: none"> 言語についての知識・理解・技能においては、定期的な実施している漢字小テストでは、高い習得率が見られる。しかし学習した漢字を作文中で適切に使用したり、正確に音読したりすることに課題のある児童が多い。また、文章中の言語の種類（主語・述語・修飾語）を判別することにも課題が見られる。 読む能力においては、文章の内容を読み取り、必要な情報を正確に取り出すことに課題がある。 書く能力においては、正しい文章形式に基づいて、自分の書きたいことを筋道立てて明確に書き表すことに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 社会（歴史）に対する興味関心はある。しかし、史実のつながりを考えて学習しようという意識が低い。そのため、どの時代の出来事か、物なのかなど学習内容の定着率にやや課題が見られる。 グループ学習で教科書や資料集から関連のある言葉を探し出したり、調べたりする活動には意欲的に取り組む様子が見られるが、個人の活動になると、資料のどこを見ればよいか分からなかったり、複数の資料を関連づけて考察したりなどの調べ学習を進めていくには課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題に対し、既習事項を活用して解決していくといった算数的な思考力に課題がある。 分数のたし算やひき算で、通分や約分をする際の基礎的な計算が身に付いていない児童が多い。 文章問題が苦手である。 いろいろな単位に対する理解が十分でない。 	<ul style="list-style-type: none"> 適切な実験器具の使い方が十分に身に付いていない傾向がある。 理科的な事象の名称など基礎的な知識が、学習内容により習得率に大きな差がある。 実験結果から必要な情報を取り出したり、比較・関連付けて読み取ることができているが、考察、推論することには課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 日常の運動経験の違い、運動への意欲の差により、運動能力の個人差が大きい。 運動能力が全般的に低下傾向にある。特にマット運動、跳び箱運動など器械体操領域における運動能力が低い。
	具体的な改善のための方策	<ul style="list-style-type: none"> 作文の中で漢字を活用できるように、日常の日記指導や作文指導の中などで繰り返し指導していく。また、あわせて主語、述語、修飾語など言語の種類についても繰り返し指導する。 物語文、説明文の指導において、内容理解に偏重するのではなく、文章の構造、語句と語句のつながりなど、文章を読み解く論理の理解に重点を置いて指導していく。そのために、指導計画を立てるときには、各単元、1単位時間のねらいを焦点化していく。 作文する際には、構成メモを活用して論理立てて作文できるよう指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> 知識や技能的なことは繰り返し学習していくかいないと定着しない傾向がある。授業の導入では前時の振り返りを行い、史実のつながりを理解し、興味関心を高めながら意欲的に学習に取り組めるようにする。 ICT機器を活用し、本単元に関わりのある写真や動画、資料を提示することで分かりやすい授業を展開をする。 授業の中で、一つの資料から読み取っていただけではなく、関連のある複数の資料を提示し、そこから比較・関連付けて考察していく学習場面を設けていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 単元の前には、学習内容に関わる既習事項の洗い出しを行い、復習したり、既習事項を視覚化したりして、活用できるようにする。 何を求める問題なのかを意識させ、計算の反復練習を行う。 数直線を書くことを習慣づけて、そこから立式することに慣れさせる。 既習内容の計算問題を行う。 単位換算のプリントを活用して常時音読したり、反復練習をしたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 観察・実験においては、使用する器具の使い方や実験方法、手順について共通理解する時間を確保する。 電気、磁石など、生活の中で身近ではあるが、あまり意識して活用する機会が少ないものに対する知識・理解の習得率が低いので、さまざまな単元の中で復習的に扱うことができるようスパイラルに学習計画を立てていく。 実験結果から必要な情報を取り出した上で、そこから何が分かるのかという考察する活動をより充実させていく。（例：自分の考えをまとめる時間の確保、小集団での協働学習、全体での共有化など） 	<ul style="list-style-type: none"> 休み時間や特別活動の時間に体を動かす遊びなどを取り入れるようにする。 それぞれの運動の特性と楽しさが味わえる指導の工夫をする。 課題を明確にして、日常的に運動に取り組ませる。
	現状の課題	<ul style="list-style-type: none"> 全体的に学習規律や活動意欲はほとんど問題なく学習に取り組んでいる。一方で、グループ活動になると乱れる児童もあり、差ができていく。 学習内容を言語化する力もおおむね順調に見受けられるが、比べて表現する力に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習規律を守り、活動意欲が高く、話し合い活動もよくできる児童が多い。一方で自分の思った通りにできなったり、失敗したりすると意欲をなくしてしまうため、個別に支援が必要な児童が数名いる。 発想構想の能力と技能について、差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> 調理実習では、今まで身に付けた技能や知識を生かし、炒める調理を楽しく実践できた。一方で、生活経験の差から、技能面での個人差が大きく、学習の進捗に差が生じてしまうことがある。 理想的な朝食のメニューを考えた際、栄養素についての知識が曖昧で、栄養バランスを考えることができない児童が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> 道徳的価値の理解への意欲はあるが、様々な立場から多面的に考えを深めていくことに課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な単語、センテンスを理解している児童もいれば、アルファベットの理解をままならない児童がいるなど英語の習熟度に差がある。 ALTを活用して授業を構成することに課題がある。
具体的な改善のための方策	<ul style="list-style-type: none"> 目的意識を持たせ、集中して学習できるように、個々に支援していく。 個人やグループ活動での表現活動を多く取り入れ、より豊かに個性を生かした表現の活動をすすめていく。 引き続き、言語活動を多く取り入れ、学習内容の定着に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 学級担任と連携・相談し、つまづきの原因や児童自身の思いを確かめながら、つくりだす喜びが味わえるようなその子に合わせた指導を行っていく。 スモールステップを作り、発想・構想しやすくするとともに、学級担任と連携相談したり声掛けを子なったりして、作る喜びが味わえるように支援していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 協働作業時のグループ編成する際、教師がアンケートなどを取り、生活経験に偏りがないように配慮する。 給食センターからゲストティーチャーを招くなど、栄養素について今までとちがった角度で学習できる機会を設定し、栄養についての興味をもたせていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 話し合いの場面では、ペア・小グループによるグループ活動を取り入れたり、意思表示をする教具などを活用したりして、一つの課題に対して多面的・多角的に話し合いができるように工夫していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 単語や会話の習得に力を入れ、アルファベット文字指導もフォニックスを活用して行っていく。 ALTには、英語の理解が難しい児童の支援をできるだけお願いする。 授業後にふり返りを行い、児童の実態を把握し、指導に生かしていく。 	

各調査（アンケート・学力テストなど）結果からの全体的課題

課題	<ul style="list-style-type: none"> ・学力調査の正当数の人数分布から、C層・D層の児童が、国語62%、社会46%、算数59%、理科50%いることが分かった。特に算数においては、D層の児童が38%いる。基礎的な知識、技能が身につけていない児童が多い。社会、理科では、複数の資料や結果を比較し、関連付けて考察することに課題が見られた。 ・児童質問紙からは、「授業の内容がよく分かる」という質問に対し、「分かる・どちらかといえばわかる」と答えた児童が80%以上いる。学習内容を、そのときは理解できていると実感している児童が多い。しかし、学習したことを習熟させていくことに大きな課題である。
手立て	<ul style="list-style-type: none"> ・本校は「授業のユニバーサルデザイン」をテーマとして研究を進めてきた経緯がある。その研究の成果を引き継ぎ、授業のねらいを焦点化して、学習内容や学習活動を精選することですべての児童が学習に意欲的に参加できるようにすること、視覚化することで学習内容の理解を促すこと、共有化することで他者の意見を尊重する態度を養い、さらに学習内容の理解を深めることを全ての教科で意識し、授業作りをしていく。 ・児童の望ましい学習態度・学習習慣の形成を目指した指導、各教科での指導、家庭との連携に重点を置く。 ・意識調査の内容については、学校便り等で保護者にも公表し、家庭と学校が連携して子供を育てていく意識を高める。

学力向上を図るための調査結果からの課題など

	国語	社会	算数	理科
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・言語についての知識・理解・技能においては、文章中の言語の種類（主語・述語・修飾語）を判別することにも大きな課題が見られた。 ・「読む能力」においては、説明文の文章構造から「問い」や「答え」などを読み取ることが概ねできていたが、物語文では、場面の様子を捉え、人物の心情を読み取ったり、要旨を読み取ったりすることに課題がある。 ・「書く納涼」においては、前段の手紙の内容から後段に続く文章を考えることに課題が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・東京都の特色ある地域に関する知識が身につけていない。また、自分の住んでいる区市町村の位置が分かっていない。 ・一つ一つの資料から情報を読み取ることができているが、複数の資料を比較し関連付けて考察し、そこから分かることを読み取ったり、必要な情報を見つけたりすることに課題が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・整数、小数、分数の四則計算の習得率が低い。特に、小数の減法と除法では小数点の処理に課題がある。また、計算のきまりを使って、工夫して計算する力や図形の特徴を理解する力などにも課題がある。 ・図形の辺や対角線の特徴、直径と半径の関係、角度の測定方法など図形に関する基礎的な知識が身につけていない。 ・全体的に数学的な考え方が身に付いていない。よって知識や技能を活用する力にも課題が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・観察実験の技能においては、基礎的な実験方法や器具の使い方が身に付いていない傾向がある。実験については、とても意欲的な児童が多いので、体験的な活動を通して、見開き1ページでの全学年統一のノート指導を徹底していく。 ・理科的な事象の名称など基礎的な知識が、学習内容により習得率に大きな差がある。 ・実験の結果から必要な情報を取り出したり、比較・関連付けて読み取ったりすることはそこそこできる。しかし、実験結果から考察、推論することには課題がある。
手立て	<ul style="list-style-type: none"> ・「言語についての知識・理解・技能」については、各学年の発達段階を踏まえた指導の充実を図る。主語と述語の関係を考えながら文章を作れるようにする。また、文の中での語句の係り方や照応の仕方に気付き、文にはいろいろな構成があることを理解できるようにする。 ・「読む能力」については、物語文、説明文の指導において、内容理解に偏重するのではなく、文章の構造、語句と語句のつながりなど、文章を読み解く論理の理解に重点を置いて指導していく。そのために、指導計画を立てるときには、各単元、1単位時間のねらいを焦点化していく。 ・「書く能力」については、目的や意図に応じ、文章を書く指導の充実を図る。段落相互の関係を見て中心となる段落を明確に位置付け、事例などを挙げながら、相手に伝わるように工夫して文を書くことができるように指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・区市町村の位置や東京都内の地名や施設についての指導を充実させる。東京ベーシックドリルや地図帳等を活用していく。学習で東京都内の地名や施設等を扱う際、それぞれの位置関係を言い表す学習活動を計画的に設定する。また、都全体から見た自分たちが通う学校がある区市町村、隣県との位置関係を確認する。 ・複数の資料を比較・分類したり総合したりして、児童が自ら課題に気付くとともに、その解決に向けて考えたり、表現したりする学習活動を充実させる。また、考えたことを文章で記述したり、白地図や図表などにまとめたことを基に話し合ったりする際に、児童の考えの根拠や理由を問う発問を必要に応じて繰り返し行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・東京ベーシックドリルを活用し、基礎的な技能の定着を図る。 ・授業においては、問題解決型の授業を主体として、課題に対し演繹的、類推的、帰納的に考え、全体で共有していけるよう指導していく。「数量や図形についての技能」については、計算の仕方を筋道立てて説明させる活動を意図的に設定していく。また、図と表と式を相互に関連させて、数量の関係を捉えさせていくことで数学的な考え方の育成を図る。 ・各単元の中で、身に付けた知識や技能を活用する問題を解く場面を設定し、活用する力の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「観察・実験の技能」においては、使用する器具の使い方や実験方法、手順について共通理解する時間を確保する。また、東京ベーシックドリルを活用し、知識・技能の定着を図る。実験結果から必要な情報を取り出した上で、そこから考察する活動をより充実させていく。（例：自分の考えをまとめる時間の確保、小集団での協働学習、全体での共有化など） ・「自然の事象・現象についての知識・理解」については、実感を伴った理解を図る活動を充実させていく。生活の中で見直させたり、規則性などを適用させたりしようとする指導の充実、科学的な言葉や概念を使用して考えたり説明したりする活動の充実を図る。